令和２年度
冬号
No.318

グリーンカルチャー

こうか

発行｜甲賀農業農村振興事務所
農産普及課
住所｜〒528-8511
甲賀市水口町水口6200
電話｜0748-63-6126
発行責任者｜市井　広樹

甲賀地域でぶどう・なしの生産が拡大中！

平成28年度から、関係機関の呼びかけで始まったぶどうとなしの栽培は、低コスト棚や根域制限栽培、低樹高栽培などの新技術の導入で、26戸、約 1.4 haまで拡大しました。栽培技術の概要については、裏表紙をご覧ください。

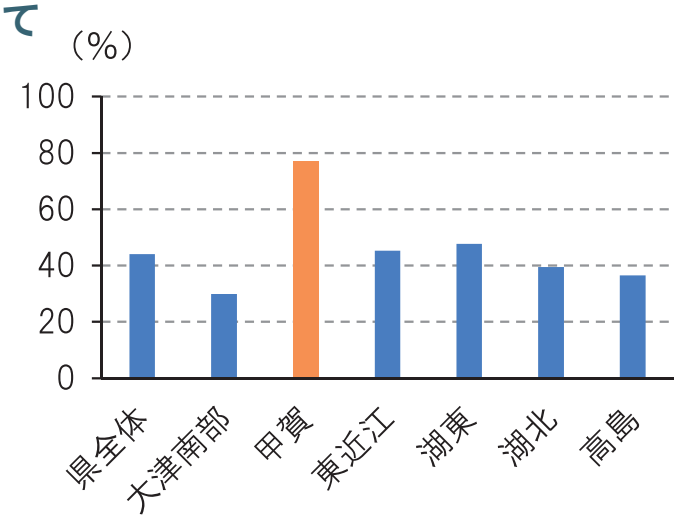
好評の農協直売所地元産果樹コーナー

滋賀県独自の取組
環境こだわり農業の今後の方向について

■甲賀地域の環境こだわり農業について

滋賀県では、化学合成農薬および化学肥料の使用量を通常の５割以下にするなどの栽培基準を満たして生産されたものを環境こだわり農産物として認証しています。

県内では、昨年栽培された主食用米の44%が環境こだわり農産物として生産されています。甲賀地域では、ＪＡこうか特別栽培米等の取組もあり、県内では最も高い７割を超える割合で取り組まれています。また、平成29年に国が実施した水田生き物調査では、甲賀地域での環境こだわり栽培ほ場において多様な生物の生息がみられたことにより、最高ランクの「S」と判定されるなど、高い環境保全効果が確認されています。

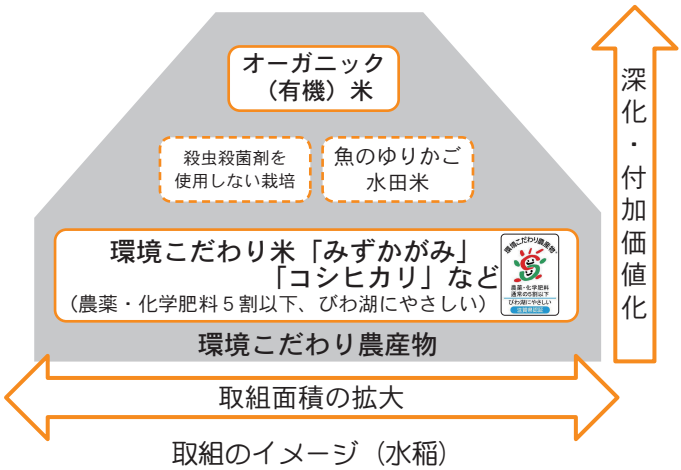


県内各地域の主食用米の栽培面積に占める
環境こだわり栽培面積の割合（令和元年）

■環境こだわり農業の今後について

平成28年の農林水産省の調査において、オーガニック農産物等を「現在、購入している(18.0%)」や「購入したいと思う(64.6%)」と高い関心が示されていることや、オーガニック農産物の取扱割合の拡大を目標に掲げる量販店があるなど、近年オーガニック農産物の需要が高まっています。

こうした中、滋賀県では、環境こだわり農業の一層の拡大に向け、新たに環境こだわり農産物の有利販売・流通拡大に向けた取組を展開するとともに、化学合成農薬・肥料を使用しないオーガニック農業（有機農業）を象徴的な取組として推進することで、環境こだわり農産物全体のブランド力向上・消費拡大を図ることとしています。



取組のイメージ（水稲）

現在、甲賀地域においてもオーガニック米や有機栽培茶、GAPといった新たな取組が始まっています。オーガニック米とGAPの取組については次ページをご参照ください。

甲賀初オーガニック近江米の作付開始！

■県域における「オーガニック近江米」の推進について

全国の環境保全型農業をけん引してきた本県は、滋賀県産農産物のブランド力の強化を目指して、令和元年から「オーガニック農業（有機農業）」を推進しています。

その一環として、県内の関係団体が生産から精米までの支援体制を構築し、県内の有機栽培で生産されたコシヒカリを、黄金色に稔る稲穂をイメージしたゴールドの新パッケージで包装し、「オーガニック近江米」として大手量販店等での販売が始まりました。

令和元年産から三日月知事のトップセールスを皮切りに、滋賀、京都、大阪の10店舗他で販売されるにまで至り、今後もますます「オーガニック近江米」に注目が集まることを期待しています。

イオン京都桂川店で行われた
知事によるトップセールス

■甲賀市初、「オーガニック近江米」作付開始

こうした県内の動きを踏まえ、甲賀地域においても令和２年度から「オーガニック近江米」の栽培の取組が始まりました。

甲賀市水口町の農事組合法人酒人ふぁ～むでは、平成26年に有機ＪＡＳ認証を受けるなどして有機栽培キヌヒカリを生産されてきましたが、今回、県を挙げての取組に賛同され、1.1 haでコシヒカリの「オーガニック近江米」の生産に取り組んでおられます。代表理事の千廣さんは、「有機栽培は草との戦いで非常に手間がかかるが、消費者が望むモノを作っていくことが使命と思っている。」と決意を新たにされています。

当課では、消費者の求める安心・安全なコメづくりの今後の方向の１つとして「オーガニック近江米」の生産を進めていきます。

酒人ふぁ～むの
「オーガニック近江米」栽培

GAPの取組で食品を安全に！

■GAPとは？

GAP（Good Agricultural Practice）とは、農業生産における工程管理のことを指し、近年このGAPによる管理が注目されています。甲賀地域では茶生産において、いち早くその取組が進められています。また、平成30年度からは本県が推進する環境こだわり農業に関連して、国の環境直接支払交付金の要件として、このGAPの取組が求められるようになったことからも、その重要性はますます高まってきています。

整理・整頓・清掃・清潔
を習慣化（５Ｓ）

■まずは５Ｓ（整理・整頓・清掃・清潔・習慣）から！

整理・整頓は作業の効率化に、清掃・清潔は農産物への異物混入等のリスクの軽減とともに、「食品安全」にもつながる大変重要な事項です。GAPを始めるにあたって、まずこの整理・整頓・清掃・清潔を習慣化することから始めてみましょう。

GAPに取り組んでいる茶工場では、蛍光灯が破損した際にガラス片が生産物に混入するリスクを回避するため、右図のように蛍光灯を割れるおそれの少ないLED照明に替える取組も見られます。これも安全で安心な農産物を生産するためのGAPの取組の１例と言えます。この例も参考に農業生産における様々なリスクとその対策について考えてみてはいかがでしょうか。

GAPは生産工程における問題の解決だけでなく、自己の経営改善にもつながります。まずは基本となる５Ｓから始めてみましょう。

茶工場のLED照明
（茶への異物混入防止）

濁水防止！　田植えまでの基本技術

毎年、４月中旬から５月下旬の代かき、田植えの時期にかけて、水田から濁った水が流れ出ることにより河川が濁る原因となっています。水稲を栽培されている方は、次の基本技術を再確認し、農業排水対策にご協力ください。

- □ 丁寧な均平作業
- □ 畦、排水口の漏水対策
  （畦の亀裂や穴を補修、止水板の設置）
- □ 浅水代かきの実施
  （土が７～８割見える状態で代かき）
- □ 代かき前、田植え前は水を落とさない
  （計画的な作業により強制落水をしない）

浅水代かき

被覆肥料殻の流出防止

水稲の基肥一発肥料などの緩効性肥料の多くは、肥料成分がプラスチックの殻で覆われています。肥料成分が溶け出た後に被覆殻が残ることがあり、水田から河川へその殻が流れ出る可能性があります。このため、上記の濁水防止の基本技術の励行とともに、水田の端に浮いている殻があれば網ですくい取るなど、被覆殻が水田から流れ出るのを防ぐようお願いします。

水田の端に吹き寄せられた被覆殻

新技術でぶどう・なし栽培にチャレンジ！

～初めて取り組む方でも安心、低コスト棚で初期投資も軽減～

お勧めしている新技術は、ぶどうは、肩がこる上向きの作業が大幅に軽減される「改良仕立て栽培」、なしは、主な管理が目の高さで行える「低樹高栽培」です。いずれも楽な姿勢で管理作業が行えます。また、農家自らが施行可能な低コスト棚は、従来の果樹棚の約1/３の経費で建設可能ですので初期投資を抑えることが出来ます。ほ場の形状や栽培者の労力に見合った面積での栽培開始も可能です。詳しくは当課までお問い合わせ下さい。

10a あたりの指標	利益	年間労働時間	時間あたりの利益
ぶどう改良仕立て栽培	133万円	404時間	3,300 円
なし低樹高栽培	87万円	295時間	2,900 円

※県経営ハンドブックに基づき低コスト棚導入を前提に試算

なし低樹高栽培での収穫

滋賀県立農業大学校のご案内

滋賀県立農業大学校（近江八幡市安土町）では、近代的な農業を行うために必要となる高度な専門知識と技術を学ぶことができます。また、在学中に就農や就職に必要な各種資格の取得が可能です。

	本県農業を担う優れた青年農業者を養成する **養成科**	就農に必要な技術と知識を習得する **就農科**
修業年限	２年	１年
応募資格	高等学校を卒業もしくは 令和３年３月に卒業見込みの者	20 歳以上 65 歳未満 （令和３年４月１日時点）

※詳しくは、滋賀県農業大学校(0748-46-2551)、または当課までお問い合わせください。

この印刷物は、グリーン購入法適合用紙を使用しています。